


みんなの声を伝えよう！

こども  若者いけんぷらすさくら

2026

こども  まんなか
さくら 

アンケートのフィードバック

令和8年5月

佐倉市こども支援部こども家庭課

目次

I. アンケート調査	3
1. 調査の概要	3
2. 調査結果	4
(1) 回答者の外出範囲	4
(2) ヤングケアラーの認知度	4
(3) 効果的な啓発方法	5
(4) 自由意見	7
3. 調査結果の総評	8
II 啓発活動への反映	10

I. アンケート調査

1. 調査の概要

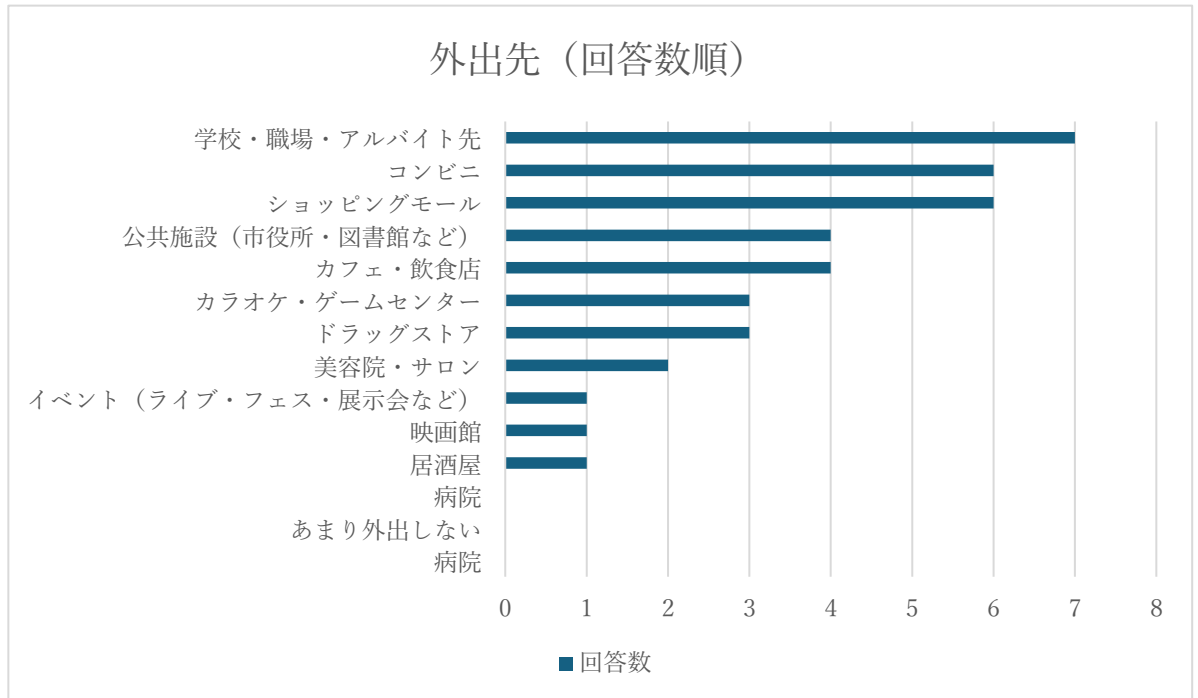
- (1) テーマ 「ヤングケアラー」の効果的な周知方法について
- (2) 目的 ヤングケアラーとは、『家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者』のことであり、本人の気づきや相談先の適切な案内が重要とされています。
これまで、小学校・中学校に対しては、学校を通じて周知・啓発を行ってきましたが、高校生や若者世代に対する有効な啓発方法については模索してきました。
そこで、どのような啓発方法・場所・内容等が効果的であるかについての参考意見を集めることを目的として、アンケートを実施しました。
- (3) 対象者 いけんふらすメンバー 17名(15歳から29歳までの子ども若者)
- (4) 実施方法 お手持ちのスマホやPCからアンケートフォームより回答
- (5) 主な調査項目
- ・高校生や若者世代が主に出かける場所
 - ・ヤングケアラーの認知度
 - ・効果的な媒体、啓発場所、啓発方法
- (6) 回答者数とその属性
アンケートの回答者は17人中7人であった。回答者の年代は以下のとおり。
(※回答者数が少ないためアンケートはおおまかな傾向や自由意見を重視)

年代	回答者数(人)	割合
15～18歳	2	29%
19～22歳	4	57%
23歳以上	1	14%
全体	7	100%

2.調査結果

(1)回答者の外出範囲

問3 あなたが普段よく出かける場所を教えてください。(複数選択可)

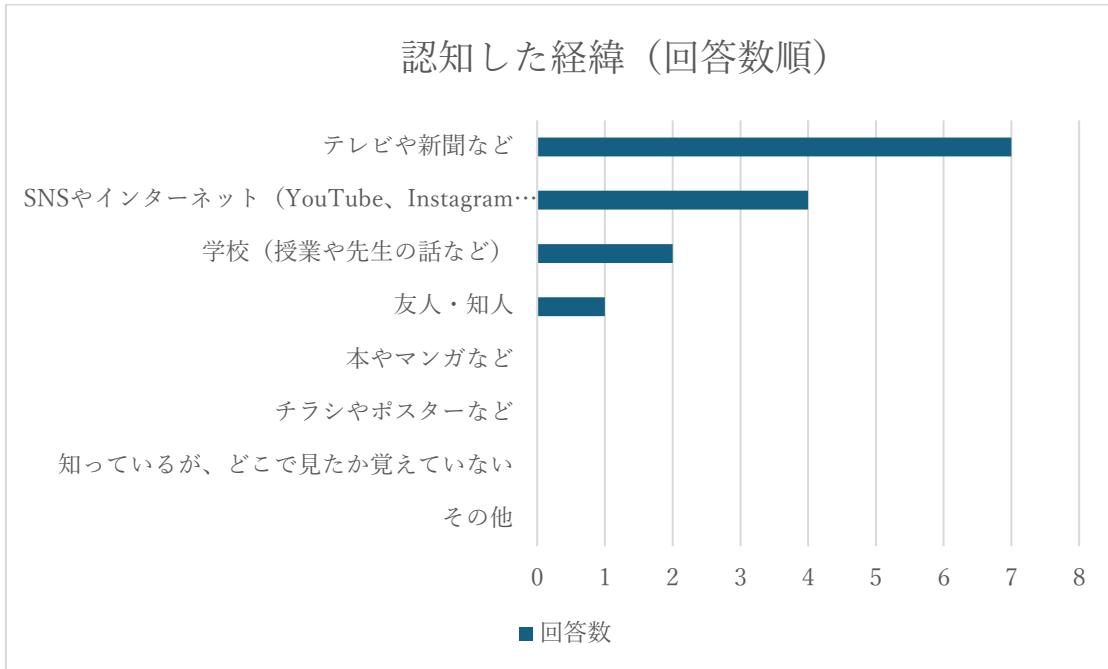


(2)ヤングケアラーの認知度

問4 ヤングケアラーという言葉を知っていますか？

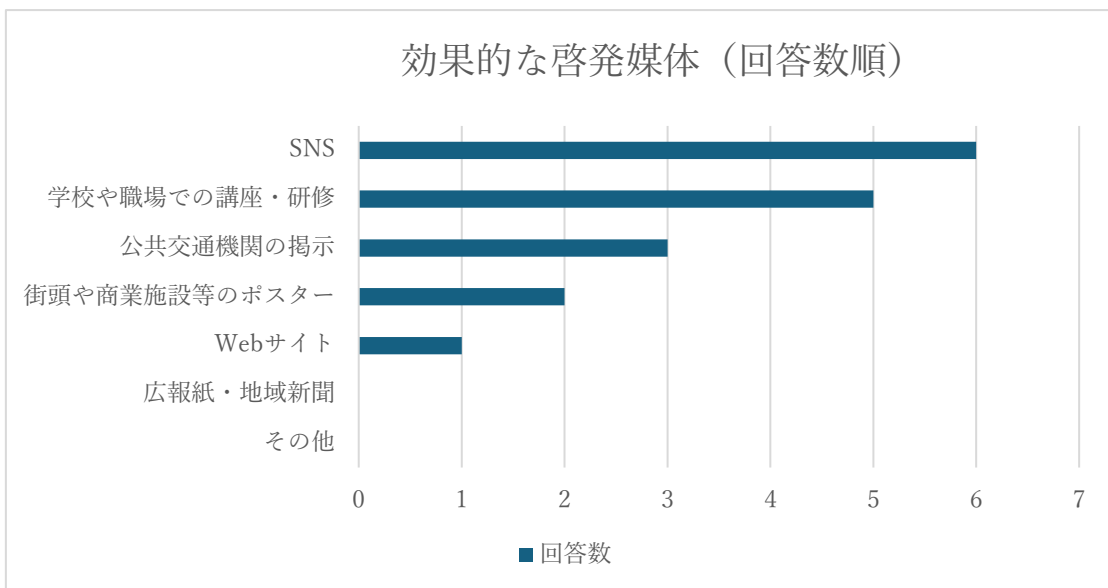
認知度	回答者数(人)	割合
聞いたこともあり、よく知っている	3	43%
聞いたこともあり、ある程度知っている	3	43%
聞いたことはあるが、よく知らない	1	14%
全く知らない	0	0%

問5 「ヤングケアラー」という言葉を、どこで知りましたか？（複数回答）

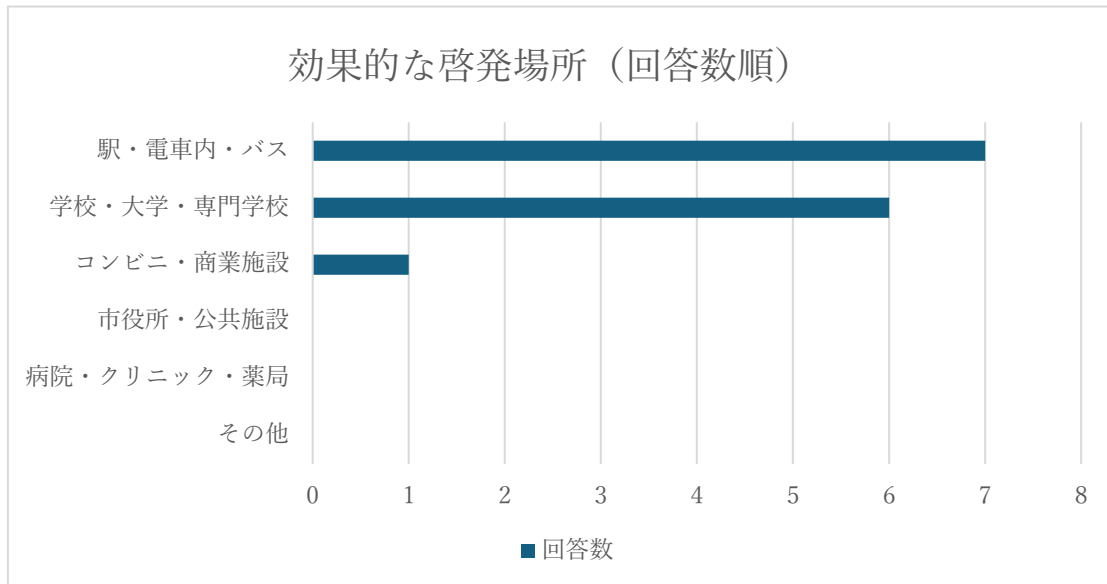


(3) 効果的な啓発方法

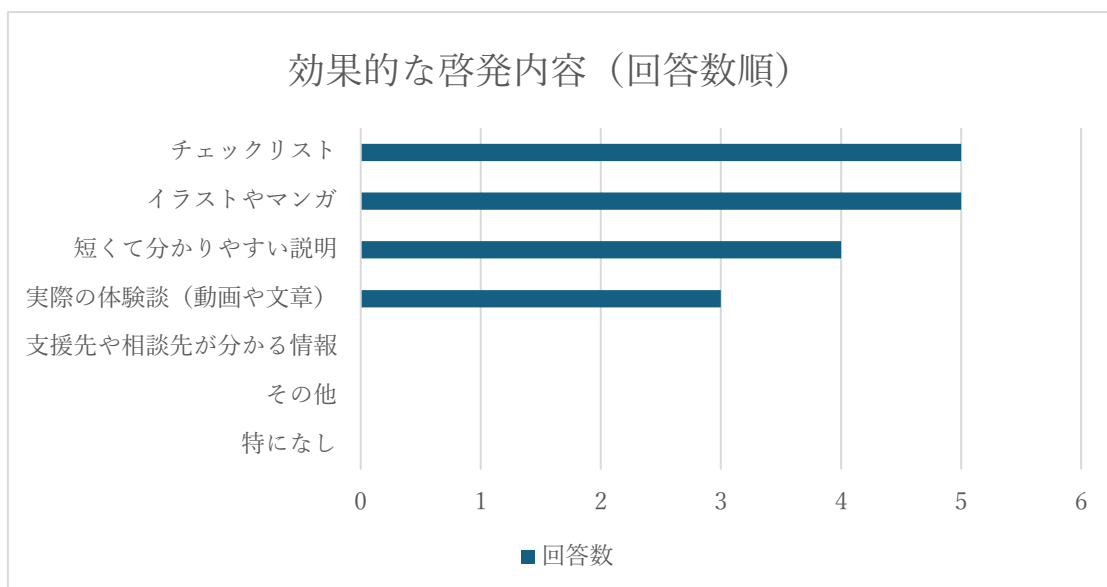
問6 高校生から若者世代の皆さんに知っていただくための媒体は何が効果的だと思いますか（複数回答）



問7 ヤングケアラーについて、ポスターで啓発するとしたら、「目に入りやすい」と思う場所はどこですか？（複数選択）



問8 ヤングケアラーの啓発方法として、どんな内容なら「見てみよう」と思われますか？（※近いものを選んでください）（複数選択）



(4) 自由意見

問9 ヤングケアラーに関する啓発がもっと広がるために、「こんな場所に広告があったら良い」、「こんな伝え方なら響きそう」など、自由に意見を聞かせてください。
(自由記述)

【啓発について】

- ・ 大家族で義務教育に通う子供等が放課後に学業より下の子供を優先しているという現実に関しては、家庭事情などもあると思うが、子供を子供として居させてあげることが何よりも大切だと思うので、その場合は子供に向けて啓発するのではなく、親世代の方に啓発していくことが大切だと思う。
- ・ ヤングケアラーの方は、自分がケアラーであると気づいていないことも多く、また家庭の事情を周りに打ち明けにくいという難しさがあります。そのため、本人がひとりでゆっくりと情報に触れられる場所での発信が、大切なのではないのでしょうか。たとえば、学校のトイレに貼られたポスターや、学習用タブレットへの画面表示などは、まわりの目を気にせずに見られる場所として向いているように思います。
- ・ ヤングケアラーの多くが家族の介護や看病に関わっていることを考えると、病院や介護施設の待合室への掲示も、そばにいる大人が気づききっかけとして、意味があるかもしれません。
- ・ SNS や動画広告を通じて、子どもの日常をやさしく描いた短いストーリー形式で伝えることで、多くの人々の心に届きやすくなるのではないかと感じます。

【支援体制について】

- ・ 親の介護を高校生などがやっている事は行政が医療機関等と協力して支援するべきだと思う。
- ・ 学校の関係者は、子どもと多くの時間を共に過ごすなかで、日々の様子や小さな変化に気づきやすい立場にあります。たとえば、疲れた表情が続いていたり、放課後すぐに帰宅する様子が見られたりといったことが、家庭での負担を知るヒントになることもあるかもしれません。こうした理由から、ヤングケアラーへの理解を広げるうえで、学校関係者への啓発をより充実させることには大きな意味があるように思います。教職員向けの研修や資料の配布、校内へのポスター掲示などを通じて、ヤ

ングケアラーの特徴や気づきのポイント、相談先などを共有していくことで、子どもが一人で抱え込まずに済む環境が少しずつ整っていくのではないのでしょうか。

【その他】

- ・ ヤングケアラーの問題は、本人が自分の状況を「ヤングケアラーである」と気づいていなかったり、家庭の事情をなかなか周りに言い出せなかったりすることが少なくありません。そのため、子ども本人に向けた発信だけでなく、日常的に子どもと関わる周囲の大人が「気づく」ことも、とても大切なのではないのでしょうか。

3. 調査結果の総評

今回のアンケートは、回答者数が7名と少数であるため、結果をもって一般的な傾向として断定することはできない。しかし、高校生から若者世代が実際にどのようにヤングケアラーの啓発を受け止め、どのような工夫を求めているのかについて、具体的な意見を知ることができた点で、今後の取組を検討するうえで参考となる結果が得られた。本総評では、数値結果に加え、自由記述に寄せられた意見を重視して全体を整理する。

◆「ヤングケアラー」という言葉の認知度について

「聞いたことがあり、よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人が多数を占め、回答者全員が言葉を知っているという結果であった。また、言葉を知ったきっかけとしては、「テレビや新聞」「SNS やインターネット」が多く、身近なメディアを通じて知る機会が多いことがうかがえる。一方で、自由記述では「自分がケアラーであると気づいていないことも多い」「家庭の事情を周りに打ち明けにくい」といった意見が見られ、言葉を知っていても、自身の状況として捉えることの難しさがあることが示されている。

◆若者世代への効果的な啓発方法について

「SNS」や「学校や職場での講座・研修」、「公共交通機関の掲示」などが選ばれており、日常生活の中で自然と目に触れる機会の重要性が示された。ポスターを掲示する場所としては、「駅・電車内・バス」や「学校・大学・専門学校」が多く選ばれている。さらに、啓発内容については、「チェックリスト」や「イラストやマンガ」、「短くて分

かりやすい説明」、「体験談」など、内容が分かりやすく、手に取るハードルが低い表現が望まれていることが読み取れる。

自由意見では、「一人でゆっくりと情報に触れられる場所での発信が大切」「まわりの目を気にせずに見られる場所が向いている」といった声が寄せられた。学校のトイレや学習用タブレット、病院や介護施設の待合室など、具体的な場所が挙げられており、ヤングケアラーが抱えやすい心理的な負担や相談のしづらさを踏まえた視点が示されている。

◆周囲の大人への啓発

また、啓発は子ども・若者本人に限らず、親世代や学校関係者、医療・介護関係者など、周囲の大人に向けても必要であるという意見も見られた。特に、学校関係者が日常の様子から変化に気づくことの重要性や、教職員への理解促進や研修の必要性について具体的に言及されている点は、今後の取組を考えるうえで重要な示唆といえる。

これらの結果から、ヤングケアラーの啓発においては、「気づきにつながる分かりやすさ」や「人目を気にせず情報に触れられる配慮」、そして「周囲の大人が理解し、気づくための取組」を組み合わせることで進めていくことが重要であることが示された。市としては、今回寄せられた子ども・若者の意見を踏まえ、今後の啓発活動や支援体制の検討に活かしていく必要がある。

Ⅱ 周知啓発活動への反映

アンケート調査をふまえ、今後の周知啓発活動について以下のとおり実施していく
予定で検討中です。

1. 高校生・若者世代への周知啓発

【啓発媒体】

- ① SNS
- ② 学校や職場での講座研修
- ③ 公共交通機関の掲示

【有効な啓発場所】

- ① 駅・電車・バス
 - ② 学校・大学・専門学校
 - ③ コンビニ・商業施設
- ➡ 日常生活で目の触れる場所
への啓発掲示が望ましい

【日常での外出先】

- ① 学校・職場・アルバイト先
- ② コンビニ
- ③ ショッピングモール

【自由意見】

- 一人でゆっくりと情報に触れられる場所での発信が大切
- まわりの目を気にせずに見られる場所が向いている

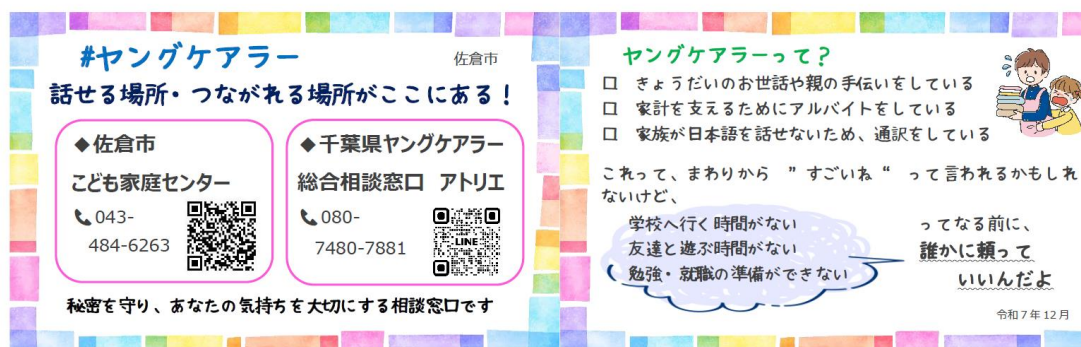
【検討内容】

- (案1) 従来の啓発物や市のホームページでの掲載のほか、市の SNS (公式 LINE や x) での周知も検討
- (案2) 公共交通機関や商業施設・コンビニなどの日常生活で目の触れる場所での啓発
周りの目を気にせず手に取れる啓発物(名刺サイズ)を、周りの目を気にせず取れる場所(トイレ等)に設置し、手に取りやすくする。

【現在の状況】

●名刺サイズ、手にとってもらえそうな啓発物を作成！（R7年度）

カラーで親しみやすく、ちょっとしたチェックリストもついています。また、相談しやすいようにLINE やメールにつながる QR コードも記載。



●設置協力してくれる事業者を発掘中！（R8 年度継続予定）

啓発物を置いてくれそうな学校・公共交通機関・商業施設を発掘中です。市内の公立高校や一部ドラッグストアが協力してくれています。今後も設置場所が増やせるように市内の公共交通機関や商業施設にご連絡を続ける予定です。

2.周囲の大人への周知啓発

【自由意見】

子供を子供として居させてあげることが何よりも大切。
そのためには、子供に向けて啓発するのではなく、親世代の方に啓発していくことが大切ではないか。



【親世代への啓発】

- ・こうほう佐倉で特集号の掲載
(令和8年5月15日号)
- ・小中学生への保護者に対して学校をとおしてヤングケアラーに関する広報物の配布
(令和8年度末予定)

【自由意見】

家族の介護や看病に関わっていることを考えると、病院や介護施設の待合室への掲示も、そばにいる大人が気づききっかけとして、意味があるのではないか。



【医療機関・介護関係への啓発】

- ・佐倉市内の病院、薬局へのポスター等の掲示の協力依頼
(すでに実施済み)
- ・地域包括支援センター・相談支援事業所へ支援の協力依頼
(すでに実施済み)
- ・介護関係機関(居宅介護支援事業所等)へ支援の協力依頼
(令和8年度 実施予定)

【自由意見】

学校の関係者は、子どもと多くの時間を共に過ごすなかで、日々の様子や小さな変化に気づきやすい立場。ヤングケアラーへの理解を広げるうえで、学校関係者への啓発をより充実させることも大きな意味があるのではないか。



【学校関係者への周知】

- 小中学校の学校に対し、児童生徒用啓発動画やアンケート調査結果の共有により周知啓発予定。
(令和8年度 実施予定)